

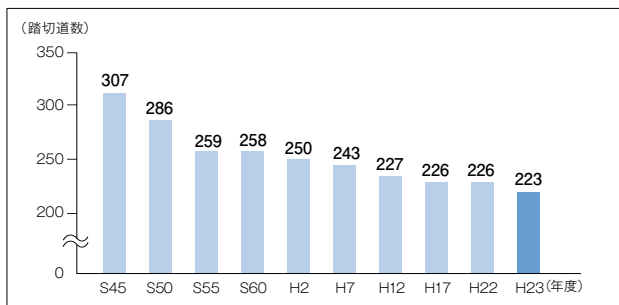
安全対策／踏切

◆踏切道の推移

踏切における根本的な安全対策は立体交差化により踏切を解消することです。当社では、立体交差化を積極的に行い、踏切の解消に努めています。

昭和45年に307カ所あった踏切は、現在では223カ所まで減少しています。現在は、京阪本線淀駅付近の立体交差化事業を進めています。これは、京都市の都市計画事業として、京都競馬場の最寄り駅である淀駅を中心に京阪本線約1.5kmを高架化する事業で、平成25年度の完了を目指しています。

踏切道数の推移



◆踏切での啓発活動

踏切道を通るドライバーや歩行者に、踏切道の無理な横断や自動車の無謀通行をしないよう啓発活動を行っています。

また、沿線の小学校に対しては、踏切事故に対する子どもたちへの教育指導もお願いしています。



踏切での啓発活動

◆踏切事故防止のための機器

●踏切支障報知装置

踏切内にて列車を停止させなければならない事態が生じた場合、非常ボタンを押すことにより特殊信号発光機を点滅させて運転士に知らせるもので、京阪線の38カ所の踏切に設置し、事故を未然に防止しています。



踏切支障報知装置

●踏切障害物検知装置

踏切警報機作動中に踏切内で障害物を検知すると、特殊信号発光機を点滅させて運転士に知らせるとともに、注意喚起の警告ブザーを鳴動させる装置です。現在では、京阪線96カ所、大津線40カ所の踏切に設置しています。



踏切障害物検知装置

●踏切閃光灯・列車進行方向指示器

踏切に設置している閃光灯や列車進行方向指示器をLED化することで、従来よりも遠方からの視認性を高めています。



列車進行方向指示器

◆踏切の全方向型閃光灯の導入

全方向から点灯状態を確認できる閃光灯の導入を進めています。視認性を高めることにより踏切事故を防止するとともに、LED化することで消費電力の低減を図ります。



踏切全方向閃光灯

▶淀駅付近立体交差化工事

淀駅付近の立体交差化工事を進めており、すでに下り線(大阪方面行き)の高架化は完了し、平成23年5月28日より上り線(京都方面行き)が高架線に切り替わりました。この高架化により3カ所の踏切道が廃止され、交通渋滞の緩和や運転保安の向上が図れました。引き続き、車庫線の高架工事を平成25年度に完了することを目指して実施しています。



高架化された上り線



整備前



整備後